

製品名: UBA1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19503**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	118kDa

抗原情報

遺伝子名	UBA1
別名	UBA1; A1S9T; UBE1; Ubiquitin-like modifier-activating enzyme 1; Protein A1S9; Ubiquitin-activating enzyme E1
遺伝子 ID	7317.0
SwissProt ID	P22314
免疫原	抗血清はヒト UBA1 の N 末端領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 91-140

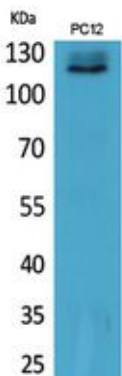
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、細胞タンパク質を分解対象として標識するユビキチン結合の第一段階を触媒する。この遺伝子は、X連鎖マウスにおけるDNA合成における温度感受性欠陥を補完し、DNA修復に機能する可能性がある。染色体Xp11.23上の遺伝子クラスターの一部である。同じタンパク質をコードする選択的スプライシング転写バリエーションが報告されている。[RefSeq提供、2008年7月]、疾患：UBA1の欠陥は、X連鎖性脊髄性筋萎縮症2型(SMAX2) [MIM:301830]の原因である。X連鎖性致死性乳児脊髄性筋萎縮症、遠位型X連鎖性先天性多発性関節拘縮症、またはX連鎖性関節拘縮症1型(AMCX1)としても知られる。脊髄性筋萎縮症は、脊髄前角細胞の変性を特徴とする神経筋疾患のグループを指し、対称性の筋力低下と萎縮を引き起こします。SMAX2は、低緊張、反射消失、および複数の先天性拘縮を呈する致死性の乳児型です。機能:ユビキチンを活性化するには、まずC末端グリシン残基をATPでアデニル化し、次にこの残基をE1のシステイン残基の側鎖に結合させて、ユビキチン-E1チオエステルと遊離AMPを生成します。、その他:E1分子内には2つの活性部位があり、一度に2つのユビキチン部分を収容でき、前のユビキチンがチオール部位に転移されるときに新しいユビキチンがアデニル化中間体を形成します。、経路:タンパク質修飾;タンパク質のユビキチン化。、類似性:ユビキチン活性化E1ファミリーに属する。、サブユニット:モノマー(類似性による)。GANと相互作用する(BTBドメイン経由)。、

研究分野

ユビキチンを介したタンパク質分解、パーキンソン病

画像データ



UBA1ポリクローナル抗体を用いたPC12細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は1:20000に希釈された。